

六無齋遺墨

070634-000-7

401-20

六無齋遺墨

仙台叢書出版協會

M26

CEC-2068



千部施行

六無齋遺墨

六無齋遺墨

六無齋遺墨

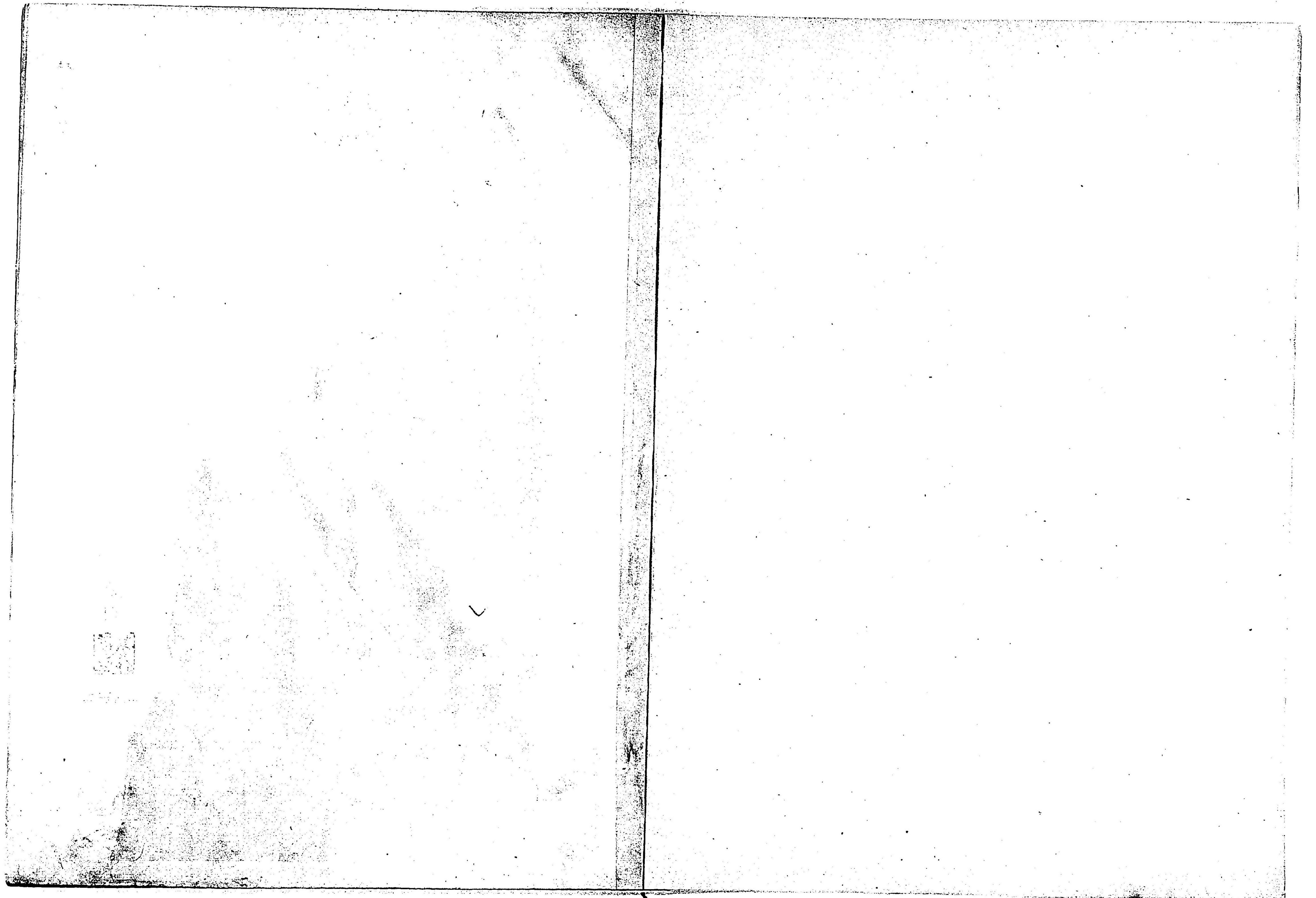
六無齋遺墨

六無齋遺墨

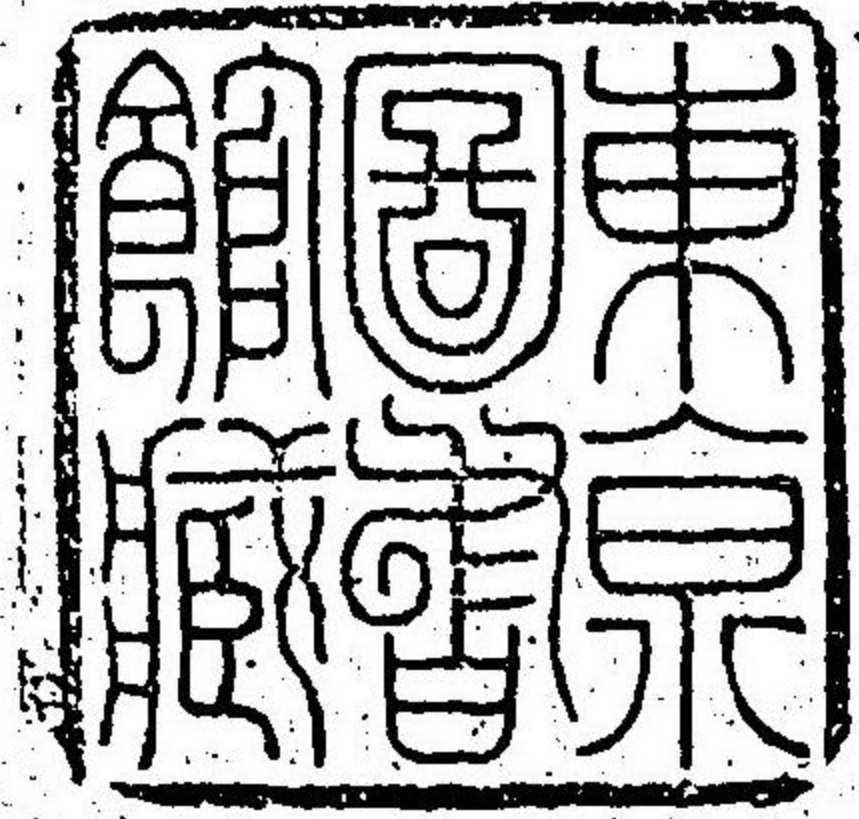
六無齋遺墨

傳て、我日の
本此法はもの
法乃をさけ
五心年の板

64
74



林子平肖像



梅閣



仙臺佐々木舜永所藏

林子平碑

Small vertical text inscribed on a dark rectangular background, likely a commemorative inscription for the subject of the portrait.

夜塚の燈籠墓子草

お星の如く中道に
出逢ふと本を託す
其花に似ても好きま
所なりと云ふも子儀
三つおのけしつらふ
は後之に花を結
吾が心はよふ所早
口の戸を立みたり
市子も仙者火の院
多う後におきさして
生る福回所のふせん
あふ便あふむら
ふれさしてあふ
まお星の如く
甘身入れ方のみ
今口方の燈籠
尸して存の外
夜塚の如く

あふ心はよふ所早
は後之に花を結
吾が心はよふ所早
口の戸を立みたり
市子も仙者火の院
多う後におきさして
生る福回所のふせん
あふ便あふむら
ふれさしてあふ
まお星の如く
甘身入れ方のみ
今口方の燈籠
尸して存の外
夜塚の如く

一 於神ありて
甘身入れ方のみ
今口方の燈籠
尸して存の外
夜塚の如く

夜塚

あふ心はよふ所早
は後之に花を結
吾が心はよふ所早
口の戸を立みたり
市子も仙者火の院
多う後におきさして
生る福回所のふせん
あふ便あふむら
ふれさしてあふ
まお星の如く
甘身入れ方のみ
今口方の燈籠
尸して存の外
夜塚の如く

有徳の徳林草

お星の星中道い

出陣の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

柱石

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

方月

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

其星の星中道い

日中候

下り来てもしる

本年の事
年にも

板本の事
本に

徳又と
徳又と

此の事
此の事

此の事
此の事

此の事
此の事

此の事
此の事

此の事
此の事

此の事
此の事

此の事
此の事

此の事
此の事

此の事
此の事

てまふなまふふが死
なまふがあまふ其
村の巻の一巻の巻
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死

ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死

ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死

ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死
ふらふらふら死

下子病気の如く
病を治すは他處の
免一命の如くも
人々を益する
病を治すは他處の
免一命の如くも
人々を益する
病を治すは他處の
免一命の如くも
人々を益する

王后五林

山川七妖

方山己美成

余嘗言子平以
恍然觀於中
三書語氣信言
有解祿古人
以亦死生之
子庶幾乎

嘉慶甲寅

水戸藩田代



初月出るときの雲は
定好く八ヶ岳の山に
赤い雲は景が少く
病氣も少し増え
お守りし
雲は淡く青く
霞は白く厚く
雲の下の山は
見えぬ
山は雲の中
にあり
雲は山を
覆ひ
山は雲の
中
にあり
雲は山を
覆ひ
山は雲の
中
にあり
雲は山を
覆ひ

本に所載の道下
必以善く之を
守りし
三月十日の夜
雲は白く厚く
霞は白く厚く
雲の下の山は
見えぬ
山は雲の中
にあり
雲は山を
覆ひ
山は雲の
中
にあり
雲は山を
覆ひ
山は雲の
中
にあり
雲は山を
覆ひ

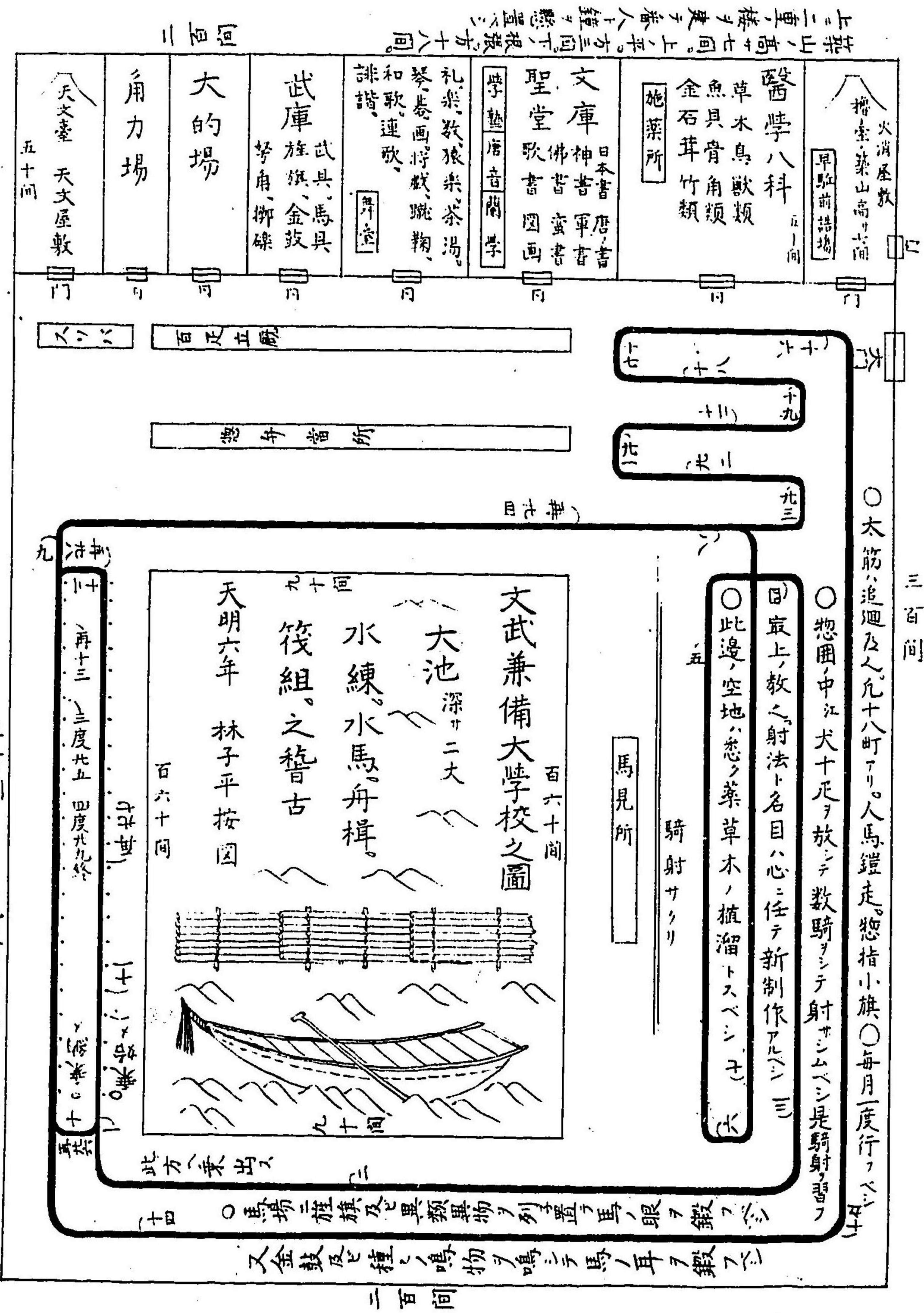
十月十日の夜
直理石仲次

阿蘭陀船圖說



HOLLANDER
Deergaarde
Lindendreef





寛政四年秋七月、
子平先生、
仙臺佐澤廣、
常雄藏、
所藏

母のつとめ

友直

すゝめ、
あつたら、
死んが、

六無齋遺墨考證

六無齋遺墨考證
卷之六
六無齋遺墨考證
卷之六
六無齋遺墨考證
卷之六

林子平肖像 菅井梅園原畫
藤塚知明ニ與フル書牘
藤塚知明ニ與フル書牘
阿闍陀船圖說
文武兼備大學校圖

仙臺 岩淵 藤所藏
仙臺 宮田鐵之助所藏
仙臺 大槻文彦所藏
仙臺 佐澤廣肝所藏

同 傳 齋藤竹堂撰文
小川只七ニ與フル書牘
頁理右伸ニ與フル書牘
阿闍陀人宴會圖
辭世ノ歌

東京 小川道一所藏
仙臺 齋藤大三郎所藏
仙臺 鈴木省三所藏
水戸 友部伸吉所藏

林子平先生印章畧解

- 一千部施行ノ印ハ海國兵談第一卷本紙ノ初面ニ捺用スルモノナリ其大サ堅一寸八分横一寸九分印文ハ朱文ニシテ楷書ナリ
- 林子平藏板トイヘル五字ノ白文印モ亦海國兵談ノ第一卷本紙ノ初面ニ捺用シタルモノニシテ其大サ堅一寸二分横一寸二分五厘印文ハ篆書ナリ
- 一歌句ヲ刻セル印モ亦同シク海國兵談ニ捺用シタルモノナレモコレハ皆其畧末ニ用ヒタリ印文朱字ナリ其取ニ云ク傳へては我日の本の兵の、法の花さけ五百年の後其大サ堅一寸八分横一寸二分ナリ
- 一越智友直トイヘル四字白文ノ印及ヒ不朽者文トイヘル四字黒文ノ印ハ共ニ海國兵談三國通覽ノ自序ニ捺用シタルモノニシテ共ニ其大サ堅六分五厘横七分印文ハ二顆共ニ篆書ナリ
- 一仙臺林子平述并藏板トイヘル白文ノ印ハ寛政板ノ阿闍陀船圖說ニ捺用スルモノナリ其大サ堅一寸二分横一寸三分印文ハ篆書ナリ
- 一仙臺林子平藏述ナル七字ノ印ハ天明板ノ阿闍陀船圖說ニ捺用シタルモノトイハトモ前ニ模寫スル大槻氏ノ藏本ニハコレヲ捺用セス故ニ付度シテ其大小印文ヲ模作シ特ニ其典型ヲ存セントス

六無齋遺墨考證

藤塚式部ニ與フル書牘

仙臺 鈴木省三撰

此書牘ハ林子平藏述ノ友ナル藤塚氏トハ知明通稱式部藤塚ニ與ヘタルモノニシテ其子孫ノ所有ナリシヲ宮城縣士族岩淵藤塚氏トシテ之ヲ求メテ珍藏セリ但シ此書牘ハ全版ニアラスシテ其後半ノ一節ナリトス而シテ書意ヲ推シテコレヲ月日ニ徵スルニ寛政四年壬子二月五日ニ作レル所ニシテ實ニ林子平下世ノ前一年ニ當ル顯フニ林子平藤塚氏トハ其交情水魚モ當ナラス故ニ往復文書亦素ヨリ多カルヘキナリ後世林子平書牘ヲ偽作セルモノ多ク藤塚氏ニ與フルモノニ係ルハコレカ爲メノミ今ヤ此前後ノ書牘ノ世ニ出テタルハ誠ニ林子平カ贋本ノ照鏡ト謂フ可シ

小川只七ニ與フル書牘

此書牘モ亦寛政四年二月十五日宮城縣士族小川道高氏ノ祖父ナル只七翁藏ハ藤塚式部ニ與ヘタルモノナレトモ今ハ其宗家ナル小川道一氏ノ所藏トナレリ翁ト林子平トハ竹馬ノ友ニシテ其交最モ深カリキ故ニ此書牘ヲ贈リテ贈ニ訣別ヲ告ケタルナリト云フ書意懇懇ニシテ自ら死ヲ分トシ言ヲ遺シテ年少ニ訓ヘントス何ソ其言ノ切ナルヤ末尼ニ水戸ノ名儒藤田東湖ノ跋文アリ是レハ道一氏ノ養父草延翁藏當時仙臺藩主夫人徳川氏夫人中納言齊昭翁ノ女ナリノ尙嬢トシテ江戸ノ藩邸ニ住セシ時コレヲ小梅村ノ水戸邸ニ贈リテ此跋文ヲ書シ荒川晴海ノ跋文ヲ書シ其師家野氏ニ介シテコレヲ草延翁ニ送遠セルモノナリト云フ大槻繁翁曾テ草延翁ニ乞ヒテ此書牘中一小紙云云云云不似ノ一斷片ヲ得自ラ臨書シテ其前後ノ文ヲ補ヒ以テ其家ニ藏シ且自ラ跋文ヲ書シテ小川氏ニ贈リキ其文ニ曰ク

林子平吾藩一奇士也昔著海國兵談若干卷詳言海防之策當此之時海內清平四邊無警而所謂西洋之學亦未甚行於世子平乃能見機未幾於無形謂東北諸夷之侵掠不可測也宜設密置砲臺嚴海防以備不虞而其設之宜自安房相模始焉子平沒十餘年北陸果有赤狄擾亂之警而後求募議置成房相亦實有取子平之言

則先見之明謀謀之遠不獨爲吾藩奇士之海內一偉男子誰爲不可哉小川國手家藏子平贈其從祖只七君俗版一通蓋子平之著兵談有觸忌諱官召而詰問其禁錮命下實在寛政四年五月十六日矣此版乃作於其間二月十五日者而志氣慷慨從容閑雅絕不見推挫衰頹之色可以概其平生所養矣余得此子平之爲人因請國手得其中一片斷而珍藏之及還此卷遂書此報厚意云

嘉永辛亥復月

勢溪大槻撰 跋

藤塚式部ニ與フル書牘

此書牘ハ寛政四年六月朔日藤塚氏ニ與ヘタル所ニシテ富田鏡之助君今東京ノ所藏タリ君曾テコレヲ石版ニ附シ且自ラ跋文ヲ作リテ同好ニ類タレタリ其書牘ノ君ノ手ニ歸セル所以ト林子平藤塚氏トノ交誼トハ詳ニ其文中ニ在リ故ニ直ニ其全文ヲ舉ケテ本書ノ考證ニ代フ其文ニ曰ク

前哲林子平著海國兵談三國通覽二書以說敵國外患於昇平安佚之日竟獲罪幽死亦在寛政癸丑此版蓋係其前歲禁錮就國之後朋友藤塚翁者翁名知明通稱式部世爲與之隙寇社稱宜好學通大義著書數十種平生博交天下高士名流其於林前哲所謂意氣相投苦樂相俱者中世以來浮屠氏混同神佛爲一因仍千餘歲常憤之已未之夏祝人與詞爭事訴之翁亦坐焉獄未成徒死于拘所抑二翁各厄於所學俱不得其死然其事可憐其志可欽也小野寺君藏此版余一見起欽慕之意君曰僕多年求諸祖墨跡未獲請割愛則易之於是贖始歸余手矣藩祖嘗欲征南蠻待扶桑萬里風者久之然觀時之不可早收國南那翼前哲抱千古獨見之奇策亦知不可行于時以期五百年之後嗚呼英雄所見出入意表者夫如此乎余與君同爲仙臺舊藩士其所求雖異其所志則一也豈可無記因記其後

明治甲申秋九月 鏡山入富田鏡之助

本書ノ末文ニ雅樂子トアルハ藤塚氏ノ子思ナル乎

頁理右伸ニ與フル書牘

此書版ハ寛政四年十月五日林子カ其門下ナル瓦理氏ハ...

我邦瓦理往番受兵法于林子平往復書東藏在...

阿蘭陀船圖説

阿蘭陀船圖説ニ種アリ一ハ天明二年ニ成リ一ハ寛政二年ニ成ル...

如キモノヲ着シハハコトト腰切リニシテ荷袖ノ物ヲ服ス...

クルカ如シ其船ニ乗ル來ル人凡百二十三人ナリ...

は甚た高き事ニ御坐候得共之ハ輪化ニ而御坐候人ノ物ヲ...

和蘭陀人宴會ノ圖

右ハ本圖ノ頭ニ題セル阿蘭陀船圖説ナリ...

本圖ハ林子ノ自畫自刻ナリ原版ハ宮城縣土旗山口...

ルハ西洋以呂波ノ首字ナルヲ以テ上席ヲ標示セルモノナルベク又一人ノ見リ
タル椅子ニ且ノ字アルハハトナル字ノ首字ヲ書シタルモノニシテコレ即チ
林子ノ親友ナルヘト氏ナルヘシ其他ニモ文字アレ共誰タルヲ詳ニセズ本
圖ハ彫刻畫法共ニ粗雜ニシテ阿蘭陀船圖ノ精緻ナルニ似ス且原字モ字畫正
カラサレハコレヲ校正スヘキモノナレ強テコレヲ校正スレハ自然ニ原圖ノ
眞面目ヲ失フノ恐レアルヲ以テ一點一畫モ削正ヲ加ヘス世ニ傳フ林子カ本圖
ノ歐字ハ何物ヲ意味スルカト人ニ問ハルハコトアルトハ敢テ之レヲ闕字ナリ
ト謂ハス只單ニ西洋ノ唐草ヲ模樣シタルナリト答ヘタリト云フ亦以テ當時ノ
事情ヲ想見スヘキナリ

辭世ノ歌

此歌ノ原書ハ茨城縣人友部伸吉氏與野田口ノ所設ナリ元ハ舊水戸藩臣立原氏
名ハ在通稱任大ノ藏品ナリシガ後故アリテ其外孫ナル友部氏ノ家ニ傳ヘシモ
ト云フ林氏雜纂ニ或年水戸中納言齊昭卿二人ノ近臣ヲ林子ノ甥ナル良伍氏ノ
家ニ遣ハシ其遺筆ヲ求メラレタルヲ以テ其命ヲ奉シテ林子ノ眞蹟ヲ獻シタリ
トノミ記シ其何番ナルヤヲ記セザリシカ伊藤寛平氏ノ親戚ハ人林ノ家ニ此歌ノ
摺本壹軸ヲ藏セリ就テ之ヲ看ルニ幅ノ一部ニ良伍氏ノ自書セル國詩アリ其序
詞并ニ歌句ニ云ク

水戸實門齊昭卿子平友直大人の和歌を心の花の櫻木にあげて世にじめ
したまふといふを得て

もれしとはおもひかけさや大君のめくみの露のあまねかる世に
是レニ由テ考フルニ癡キニ良伍氏ノ齊昭卿ニ獻リシハ此歌稿ニシテ卿當時コ
レヲ割削ニ附シタルヲ以テ其摺本流傳シテ林氏ノ手ニ入り再傳シテ伊藤氏ニ
存在スルモノナルヘシ其前後ノ事蹟ヲ參酌スレハ歴歷トシテ確證アリ其刻板
ハ所在明カナラサレトモ伊藤氏翻刻板ノ摺本ハ往々世ニ存シテ人ノ珍藏スル
所ナリ而シテ其眞蹟ノ立原氏ニ在リシ由來ハ今コレヲ詳ニスル能ハサレトモ
當時立原氏ハ扈從頭ノ職ニアリテ書畫ヲ能クシ卿ノ信任甚タ厚カリシ故ニ此
歌本ヲ割削ニ附セラル、際親シク其事ニ干預セシヲ以テコレヲ其家ニ傳ヘタ
ルナラム歟抑水戸藩黨争ノ殘虐ナリシハ世人ノ知ル所ニシテ薄士コレカ爲ニ

家寶ヲ薪設セラレシ者共タ多ク立原友部二氏ノ如キモ亦前後此稿ニ罹リ所有
ノ資産百一ヲ存セス書畫輻軸等モ亦殆ント散逸シ盡キタリト云フ然ルニ獨リ
此眞蹟今日ニ僅存シテ再ヒ世ニ著ハルハモノハ先哲ノ心畫ト賢君ノ芳圖ト空
シク燧滅ニ歸スルヲ惜ミ冥々ノ裏ニ鬼神ノ呵護セシモノアルニ似タリ奇ト謂
フヘキナリ

文武兼備大學校之圖

此圖ハ林子ノ兵學ノ門人ナル瓦理往齋ニ與ヘシ所ノ木板ニシテコレ亦林子
自寫自刻ナリ原板ノ所在今ヤ知ルヘカラス然レモ其摺本幸ニ佐澤廣房
入主氏ノ手ニ在リシヲ昨二十五年林子百年祭日ニコレヲ翻刻シ其摺本ヲ祭筵
ニ供シタリ此圖ハ海國兵談ニモアリトイヘル相此スレハ一冊精密ナリトス故
ニ佐澤氏ノ原板摺本ニ就テ其眞ヲ摸寫セリ且左傍ニ瓦理氏自ラ其師林子ヨリ
受ケタル年月ヲ記シコレニ姓名ヲ併セ記シタルハ最モ本圖ノ重ヲ爲スコト鮮
少ナラスコレニ由テ師弟授受ノ來由ト其出處トヲ明カニスルヲ得タルハ亦至
幸ト謂フヘシ

明治二十六年七月十日印刷
明治二十六年七月十五日發行

定價金四十錢

版權所有

編輯兼 發行者 伊勢齋助

印刷者 渡邊爲治郎

陸前國仙臺市町百十四番地

陸前國仙臺市大町三十三番地

發行所

仙臺叢書出版協會

賣捌所

靜雲堂 伊勢安書店

